

## 論文番号 61

担当

滋賀医科大学 福祉保健医学講座

題名 (原題/訳)

Binge drinking in pregnancy— frequency and methodology

妊娠における大量飲酒— 頻度と方法論

執筆者

Kesmodel U

掲載誌 (番号又は発行年月日)

American Journal of Epidemiology 154(8)777-82, 2001 Oct 15

キーワード

飲酒、バイアス (疫学)、質問票、妊娠

要旨

妊娠時における多量飲酒が悪影響を与えるとの報告は散見されるが、多くの研究はその関連を証明し得ていない。デンマークの 371 名の妊婦を対象として、妊娠期間の前半における多量飲酒経験を二つの方法、すなわち、インタビューとアンケートとで調査し、多量飲酒経験の頻度とパターンを分析した。回答率はそれぞれ、81%と 86%であった。多量飲酒の経験割合は、妊娠の経過に最も依存していた。最終月経から 3 週目では、多量飲酒の経験率は最も高く、その後漸減し、7 週目では 1%になった。この 1998 年の調査経験から、多量飲酒と妊娠時における悪影響の関連に関する多くの研究において、その関連が見出せなかった理由は、この調査方法の問題であると考えられる。将来の研究においては、多量飲酒経験に関する調査は、その時期を明確にして実施する必要がある。この研究方法は、インタビューとアンケートとで、容易に入手できる情報である。